

「楽しい音がいっぱい」

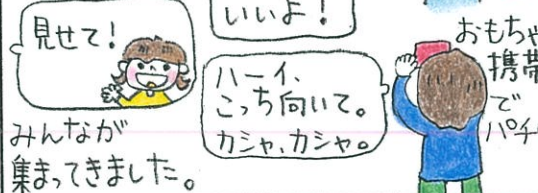
5歳児のAちゃんが、ラップの芯で何気なく空き箱をたたく音に興味を示したBちゃん。プリンカップを手にする、シンバルのように鳴らし始めました。



「これはどうかな？」
叩いた音をこすってみたり箱に空容器を入れて揺すったり、マラカスのように振ってみたり...



「おもしろそう。入れて。」
「いいよ！」
「おもちの携帯でパチリ。」



音楽のリズムに合わせて応援の手拍子を送ったり、思い思いの音を鳴らす子どもたちのコラボレーションが、楽しい雰囲気を盛り上げていました。



「なんか、これって発表会みたいやね。」
「うん！」
いろいろな音に気づいたり、おもしろさを共有しながら、うれしい気持ち広がっていくミニコンサートの一コマでした。

「行ってきまーす！」

2歳児のCちゃんとDくんは、ままごのごちそうをバックに入ると、ドアに見立てたダンボールの仕切りを開けて、いそいそと出かけて行きました。



保育士と一緒に、手あそびを楽しんでいる友だちを横目で見ながら、ひと回りすると、ヒョクニクのように、ごちそうを並べ始めた2人は、ごきげんです。



ままごの「ごちそう」を食べた後、絵本を見ていたCちゃんとDくんは、それぞれに「わに」の写真やイラストが出ているページを発見しました。



2人は大張り切りです。
「センセイ! ホラ、ワニサン。」
「ワニ!」



「コレダヨ! ワニ。」
「わに」の手あそびをしていた保育士や友だちと一緒に、愉快的な「わに」のイメージを共有したいワクワク感が伝わってきました。
新しいクラスになった不安や緊張が少しずつほぐれ、あそびに目を向けることができるようになってきた子どもたちの姿がありました。